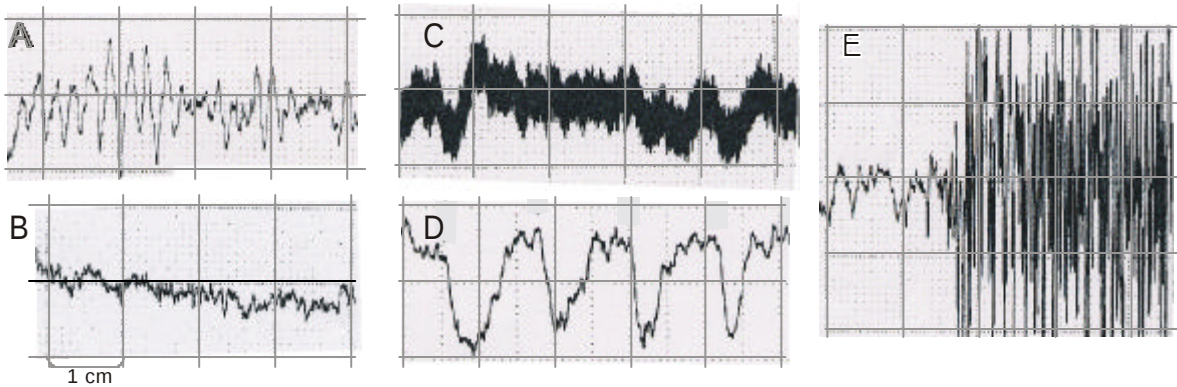


下の記録は、今回実習で記録された脳波です。



- この記録を行う記録条件は、どのように設定するのが最も適当か。右表の下線の選択肢のうち、適当なものに○をつけなさい(2 点)。

感度	紙送り速度	Low cut filter	High cut filter
<u>10 μV、50 μV</u> 500 μV、1mV	25 mm/s	<u>0.08Hz、0.5Hz、</u> 5 Hz、100 Hz	30 Hz

- A の記録に横目盛り(時間軸)を書き入れなさい(1 点)。(実線で書かれたの枠の 1 目盛りは 1cm を示す)

- 上の記録で、α 波が三周期以上出現している部分にマークを入れなさい(1 点)。

α 波の出現している時間 (単位：秒)	出現している α 波の 周期数(単位：周期)	左の値から求めた α 波の 周波数(単位：Hz)

- マークを入れた部分について、右の表をうめて α 波の周波数を求めなさい(3 点)。

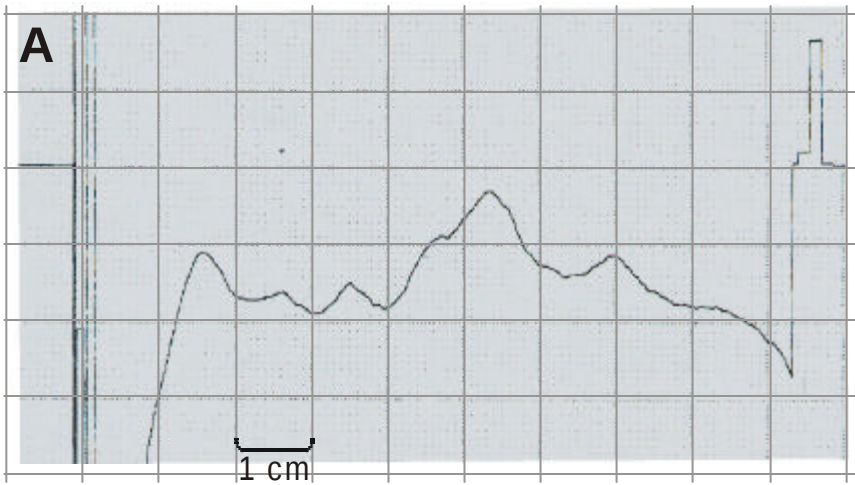
- 以下のノイズが混入している記録はどれか。上の記録中、最も典型的なものを 1 つ選びなさい。(3 点)。

- 1 . () 被験者は、歯を噛み締めている。
- 2 . () 被験者は、まばたきを繰り返していた。
- 3 . () 電極と頭皮の間の抵抗が高く、ノイズが記録されている。

右の記録 A は、今回実習で記録された聴性脳幹反応です。

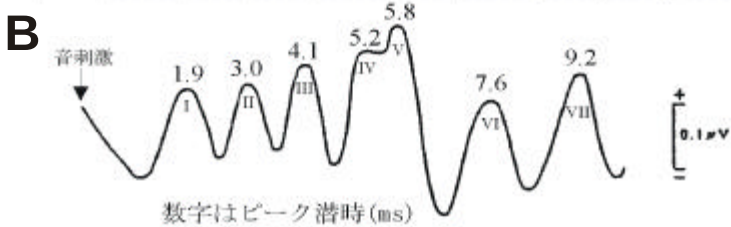
- この記録を行う記録条件は、どのように設定するのが最も適当か。下線の選択肢のうち適当なものに○をつけなさい(1 点)。

感度	Low cut filter	High cut filter
10 μV	5 Hz	<u>30Hz、300Hz</u> 1k Hz、3kHz
解析時間	紙送り速度	クリック音頻度
10 msec	50 mm/s	10 Hz



- 記録条件を参考に、上の記録に横目盛り、縦目盛り、刺激時点を入れなさい。縦目盛りに関しては、どのように決定したか分かるように書きこむこと。なお記録には、実習中と同様、感度の 1/10 の校正電圧が入っている (枠の 1 目盛りは 1cm を示す)(3 点)。

- A の記録に、B の標準波計と同様のピークが見られるか。見られる場合は記録中にピークを示すマークを入れ、以下の表に潜時を書き入れなさい。ピークが見られない場合は、表に「不明」と書き入れよ (7 点)。



ピーク							
潜時 (msec)							

III.脳波についての下の記事で、正しいものには○を、誤りがあると思われるものには×を書き入れなさい(各 1 点)。

- () 脳波の記録には、使い捨て電極 Vitorode を用いる。
- () 脳波の電極をつける時、皮膚表面をアルコール綿などでよくふいておけば、後は何時間でもそのまま記録できる。
- () 聴覚皮質電位を記録中の患者のそばで、次の検査について相談しあっていた。誘発脳波はうまく記録できず、大脳皮質の異常が疑われた。
- () 誘発脳波は平均加算を行うのであるから、患者は動いても構わない。